

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	コミュニケーション科学		
英文授業科目名	Communication Science		
開講年度	2005年度	開講年次	1年次
開講学期	2学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門基礎科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	福田 豊、吉浦 裕		
居室	西6-509(福田)、西6-611(吉浦)		

公開E-Mail	授業関連Webページ
福田豊 吉浦裕	

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>現代社会におけるコミュニケーションの機能と役割はきわめて大きい。マスメディアやネットワーク空間が提供する疑似環境の多様化と、それへの依存度がますます大きくなっていることや、社会における非市場領域の拡大がその理由である。他方で、最近の情報技術は、コミュニケーション・テクノロジーとしての性格を強め、従来のコミュニケーションプロセスを変革し、新たな機能と役割を生み出してきている。本講義では、コミュニケーション・テクノロジーとしてのIT（情報技術）の基礎的な知識や新たなメディアの特性を学び、新たなコミュニケーションの機能と役割を理解することを最大の目標とする。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
特になし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
特になし

<b>【教科書等】</b>
テキスト：E.M.ロジャーズ（安田寿明訳）『コミュニケーションの科学』（共立出版）

【授業内容とその進め方】

授業の構成は以下を予定している。

- 1 コミュニケーション特性の変革
- 2 新通信技術とは何か？
- 3 コミュニケーション科学の歴史
- 4 コミュニケーション技術の採用と実行
- 5 コミュニケーション技術の社会的影響
- 6 コミュニケーションの新理論
- 7 新しい研究方法
- 8 新通信技術の応用

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

a) 評価方法：

学期末試験による

(b) 評価基準：

最近の技術的な特徴と新たなコミュニケーションモデルの本質を理解すること。

オフィスアワー

特に設けない。質問等は電子メールで随時受け付ける。また、必要な場合には面談時間を設けて対応する。

## 電気通信大学 平成17年度シラバス

### 【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで随時受け付ける。また、必要な場合には面談時間を設けて対応する。

### 【学生へのメッセージ】

コミュニケーションはこれまでも私たちの思考様式やふるまいに大きな影響を及ぼしてきているが、IT革命は、そのようなコミュニケーションの機能と役割をより強化する傾向にある。来るべき社会にとって、コミュニケーション・リソースやスキルの開発は最も重要な課題の一つであり、私たち一人一人も、新たなメディアを駆使して解決可能な問題群の発見に取り組む必要がある。

なお、対象が文理融合的な性格をもっているため、福田と吉浦が分担して講義を担当する。

### 【その他】

なし